

繰り返される政府開発システムの問題点

中所武司

■このブログのきっかけ

政府が開発したワクチン接種記録システムVRSで、利用上の問題点が多発しているらしい。その内容は、以下の記事に詳しい。

- ・朝日の12/29の記事

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15158018.html>

「接種記録、大量誤データなぜ 政府開発システム・VRS」

- ・日経の11/3の記事

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ077229750S1A101C2EP0000/>

「ワクチン記録ミス頻発 政府システム読み取りづらく 3回目接種手続き滞る懸念」

■記事内容の要約とコメント (→★)

【朝日の記事】

- ・新型コロナワクチンの接種状況を一元管理するシステムに、入力ミスが相次ぎ、400万件を超えるデータの再確認に、全国の自治体が追われている。
- ・2回目の接種日が1回目より過去になっているなど、修正が必要なデータは、12/16時点で、全国約1億件のうちの約10万件(0.1%)
- ・間違っているかどうかの確認が必要なデータが、433万件に上る。
- ・接種券に記載の市町村コードや券番号を含む18桁の数字を読み取るため、政府が配布したタブレット端末のカメラでは、テスト段階から「5」を「3」に誤読する例などが頻発していた。
- ・日付やワクチンの種類など、一定のミスが避けられない手入力が必要な項目も多く、自治体側の感覚では「基本ができていない」(担当者)システムだった。

→★**去年の、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)のトラブルと同じ誤りが繰り返されている。この時の以下の指摘は、今回にも通じる：**

***利用者視点なしのシステム開発だった**

***機能のみを重視し、使用性を軽んじた**

(参考ブログ)

2020.12 「HER-SYS はなにが問題だったか」を読んで

<http://www.1968start.com/M/blog/index2.html#2012c>

- ・より精度の高いバーコードではなく、数字の読み取りにした理由：VRSの開発が始まったのは今年の1月下旬。その時点で、自治体は、様式がバラバラな接種券を印刷し始めており、唯一、共通していたのが18桁の数字だったので、「接種券は市町村が発行する」とした上でバーコードの記載を任意とした。
- ・VRSは、記録の上書きが常時可能で、間違っ読み取った記録が、正しい記録を消していた。11月中旬に上書き防止機能を追加したが、自治体からの指摘はその数カ月前からあった。

→★昨年の、新型コロナ接触確認アプリ（COCOA）でも、不具合への対応が4カ月放置され、問題になった。この時の以下の指摘は、今回にも通じる：

*プロジェクト管理の基本ができていない

(参考ブログ)

2021.2 新型コロナ接触確認アプリの不具合を4カ月放置

<http://www.1968start.com/M/blog/index2.html#2102>

- これから配布する3回目の接種券では、2次元コードを記載するよう仕様を統一。ただ、手入力の項目はこれまでと同じように残っており、一定のミスは避けられない。
- VRSのデータは、12/20に公開されたスマートフォンの接種証明書アプリにも使われている。接種日などが間違っていたら、自治体に照会してもらえばよいというのがデジ庁の立場だが、自治体側には「間違いがあることが前提なのはそもそもおかしいのでは」などの声もある。

【日経の記事の要約】

→★コメントは、すでに述べたものと同じ

- ワクチン接種状況を把握する国のシステムで、正しい情報が登録されない事態が各地で頻発。接種日やワクチンの種類など基本的な情報での誤入力が目立つ。コロナ禍で露呈した行政のデジタル化の遅れを取り戻せていない。接種証明書の発行や年内に3回目接種が迫る中、また手続きが滞る懸念が残る。
- 政府は、接種記録システム「VRS」を開発し、これまで運用してきた。全国共通のシステムで、リアルタイムで接種状況を把握するのが目的だが、課題は多い。
- ワクチン接種を担う医療機関や自治体が、接種券に印字された18桁の数字を読み取りデータ登録する。この数字が読み取りづらく誤登録につながった可能性が高い。ロット番号など手入力の項目でも誤りが目立つ。
- 約10万人のワクチン接種を終えたある自治体で、確認データの3%超の誤りが確認された。単純計算で全国に当てはめれば、250万人超のデータに誤りがあることになる。
- この自治体で「1回目の接種記録がないのに2回目の記録がある」「接種日が間違っている」といった事例が散見され、接種券を発行していない人の接種記録も残る。誤読が少ないバーコード入力を独自に採用したため事例としては少ないが、職域接種分など市外で登録されるデータで誤りが多い傾向もある。
- 「VRSのデータと接種券が貼られた『予診票』を見比べないと、正しいデータか分からない」と担当者は話す。10月下旬からは予診票をもとに接種記録を再登録する作業を開始。2~3週間かけて全件のデータを見直す。
- 別の自治体では、接種証明書を発行する際、申請者の1割程度でデータの誤りが見つかった。この自治体でも11月以降、外部業者に委託して誤ったデータの修正作業を進める予定だ。
- VRSのデータが正確でない場合、3回目のワクチン接種にあたって混乱が予想されるが、政府は11月中にも自治体に追加接種分のワクチンを配分し、12月から追加接種を始める予定。2回目の接種を終えてから8カ月以上たった人が対象となる。

- 10/20 の事務連絡では、VRS が各自治体が運用する予防接種台帳のデータをもとに、3 回目の接種対象者を抽出して接種券を発送するよう自治体に通知した。自治体からは「VRS では誤った接種券を発行しかねない」と危惧する声上がる。
- もともと接種記録には、各自治体の予防接種台帳を活用する案があった。だが集計までに数カ月かかる難点があり見送られた経緯がある。
- 他方、VRS システムは度々改修しているが、現場で起きる課題に追いつけない現実がある。今秋に追加された入力エラーの検知機能も、誤ったデータではないのにエラー表示になるなど改善を求める声が目立つ。
- VRS のデータは今後、接種証明書の電子申請などの際などでも利用される見通しだ。スマートフォンのアプリを利用して証明書を電子申請、取得できる仕様が想定される。ある政令市の担当者からは「電子申請でエラーが出た、といった問い合わせにどう対応すればよいのか」と困惑する。

■ソフトウェア工学的観点でのコメント：

新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）や新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のトラブルに関するブログで述べたのと同じで、以下の通り：

- *利用者視点を無視した要求仕様が作成されている
- *まともなプロジェクト管理がされていない

以上